

3 資料調査研究プロジェクト

[概要]

歴博では、所蔵資料の研究活用を推進するため、目録情報や画像などの基礎データを調査・整理し、その成果を資料目録や資料図録をはじめとする多様な形態で公開する資料調査研究プロジェクトを、計画的に実施している。本年度は、「歴博館蔵縄文時代資料図録の作成」を目的として、資料調査・整理等を実施した。

資料担当 鷺頭 桂

[各プロジェクト]

(1) 「歴博館蔵縄文時代資料図録の作成」2022～2026年度 (研究代表者 中村 耕作)

1. 目的

本館は設立以来多くの考古資料を収集・保管してきた。これらの資料を広く公開し、展示への利用や共同研究における利用を推進するために館蔵資料の調査・整理・記録作業を行い『国立歴史民俗博物館資料図録』を刊行してきた。これまでに、考古資料として、北海道の縄文時代資料を収集したコレクションの図録である『1 落合計策縄文時代遺物コレクション』(2000年度)、日本各地出土の瓦の図録である『4 瓦コレクション』(2005年度)、弥生時代の青銅器を扱った『6 弥生青銅器コレクション』(2008年度)、『8 古墳関連資料』(2011年度)、『11 亀ヶ岡遺跡・是川遺跡縄文時代遺物』(2014年度)、『12 槻の木遺跡出土品』(2021年度)を刊行してきた。

本プロジェクトは引き続き、縄文時代・弥生時代・古墳時代の館蔵考古資料の調査、整理をし、基礎的なデータの収集及び実測図の作成等を行い、その成果をまとめた図録を刊行することによって、その資料の内容を公表することが目的である。2022年度からは、青森県小渡遺跡出土品(A-226)の整理を開始した。縄文時代後期前葉の環状列石や再埋葬をもつ特徴的な文化の基盤となる土器・石器・石製品・土製品等のデータ化は多くの研究に資すると考えられる。

2. 経過

本年度は資料の分類、写真撮影を進めた。また、当資料群の位置づけを図るため2023年度から開始した歴博共同研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」と連携し、石器の実測図化、土器底部のレプリカ作成・PEAKIT化、土器胎土分析などを実施した。7月には共同研究と合同で、十腰内式の研究者を招請し、資料の位置づけについての検討会を行った。

3. 成果

検討会を通じて、資料の位置づけが明瞭になり、掲載順を概ね確定した。写真についても個別の資料写真は撮影を終えることができた。また3Dデータをもとに土器の展開データを作成した。これらをふまえて、次年度はレイアウト、執筆、刊行に進むことが可能となった。なお、成果の一部として、2026年4～5月に開催される特集展示「モノと身体」に土器の一部を展示する。

4. 研究組織 (◎は研究代表者)

◎中村 耕作 本館研究部・准教授
山下 優介 本館研究部 助教
阿部 昭典 千葉大学・教授(当館特別客員教授)